

長岡市長記者会見要旨

日 時：令和 7 年 7 月 18 日（金）午前 10 時 00 分から

会 場：アオーレ長岡 東棟 4 階 大会議室

【 会見項目 1：新たに 1 人を確認
長岡空襲による殉難者は 1,489 人に 】

<市長>

これまで長岡空襲の殉難者数は 1,488 人でしたが、このたび新たに 1 人の殉難者が確認できたため、7 年ぶりに名簿に 1 人を加え、合計 1,489 人になりました。登録日は 8 月 1 日としています。

また、戦災資料館では空襲殉難者の遺影収集に取り組んでおり、今年 7 人分の遺影が寄贈されたことで、遺影の総数は 377 人分になりました。現在開催中の戦災殉難者の遺影展に、新たに殉難者として確認された方の遺影は 8 月 1 日から公開させていただきます。

遺族の「犠牲者を忘れないでほしい」という思いや、長岡市が戦災の記憶を後世に伝えていく思いから、これからも遺影の収集や空襲の史実を伝えるための資料収集を進めていきたいと思います。

【 会見項目 2：長岡空襲・戦後 80 年
本市ゆかりの方々の想いとともにより市民の平和への願いを伝えます 】

<市長>

長岡市では 8 月 1 日の「長岡市恒久平和の日」に、戦災で亡くなられた方々を追悼し、平和を願う行事を開催します。今年は長岡空襲から 80 年の節目となるため、より多くの人々に空襲の記憶と平和の大切さを伝えることを目的としています。

1 つ目は、長岡市平和祈念式典です。亡くなられた方々への黙とう・献花、長岡空襲のお話、非核平和都市宣言の朗読、折り鶴の委託などを行います。

2 つ目は、鎮魂たむけの花です。従来は戦災資料館で行っていましたが、今年は 31 回目となり、より多くの皆さんから献花していただきたいということで、アオーレ長岡に会場を変更して「鎮魂たむけの花」を実施します。

3 つ目は、ながおか平和フォーラムです。

中学生平和作品の発表のほか、長岡出身の俳優による体験談の朗読や平和への想いにつ

いてご講演いただきます。

4つ目は、終戦80年 大石芳野「平和祈念」写真展 in 長岡です。

写真家の大石芳野さんは、昨年も平和祈念式典や、長岡の戦災体験を後世に残す取り組みについて幅広く取材をしてこられました。そういった成果も踏まえながら今年は大石さんの写真展、記念のトークライブを開催します。

このイベントは、長岡市出身の作家でスポーツライターでもある小林信也さんが企画したもので、写真展では長岡空襲体験者の現在を収めた写真も展示されると聞いています。

このほか、長岡市の主催以外にも、多くの平和行事が行われます。7月31日の平和の森コンサートなど、詳細は資料に記載のとおりです。

<記者>

項目1の、殉難者が1人新たに見つかったことについて、ご遺族の申し出があつてと書いてありますが、もう少し詳しく、いつくらいに、どういう形で申出がありましたか。

<庶務課長>

昨年度、ご親族の方から一度問い合わせがあったものの、正式な申請には至りませんでした。今年度に入ってから、正式に登録の申請をされることになりました。

まず戦地で負傷され、日赤病院に入院されていて8月1日に空襲に遭われて亡くなった方をこのたび登録するものです。

<記者>

2つ目の項目で、市長がお話しになった、平沢さんによる長岡空襲の講話について、これは、平和祈念式典では例年とは違う新しい部分なのでしょうか。

<庶務課長>

例年と違う部分としては、まず1点目が、長岡空襲のお話で初めて支所地域の方からご講話をいただくという点です。

2点目は、平和祈念式典の代表献花のところで、新潟県選出の高校生平和大使として、長岡の高校に通う生徒が献花するということです。昨年度に引き続き、長岡の高校生が平和大使に選ばれ、今年度も代表献花をしていただきます。

一方で、式典の基本的な構成については、例年と同様、しめやかに執り行う予定です。

<記者>

新たに加わる荒海さん、この方はなぜ今まで申請をされなかったのか理由はわかりますか。

また、支所地域からの空襲体験をお話くださる方は当時13歳で、住んでいたのが支所地域ということなののでしょうか。空襲のときに支所地域にいた、その現場の様子ということ

なのでしょうか。

<庶務課長>

まず 1 点目の荒海さんの件ですが、なぜ今まで申請されなかったのかというところは、すみません詳細は承知していません。

2 点目については、この方は支所地域にご住所があるのですが、空襲当時は長岡の市街地に下宿していて、そこで空襲に遭った方です。

<記者>

慰霊の花火、白菊の打ち上げ 8 月 1 日の件ですが、梵鐘の打ち鳴らしは確か市内の全寺院に呼びかけをするということでしたが、いくつくらいの寺院に呼びかけをして、どれくらい参加されますか・

<庶務課長>

梵鐘の打ち鳴らしの寺院の数ですが、57 のお寺にお願いをしています。

<市長>

長岡市仏教会の皆さんにお願いをして、梵鐘のあるお寺では全て打っていただくように御触れを出していただいていますので、そのような形で鳴らしていただけると思います。

<記者>

戦後、空襲から 80 年を迎えるタイミングで、新たに 1 人の方が殉難者名簿に追加されましたが、80 年経った今でも分かっていないことがあることや名簿が新たに加えられたことに対する重み、受け止めのようなものをいただければと思います。

<市長>

80 年が経過しても、未だに新たに戦災犠牲者の名簿に加えられる方がいるということは、戦争の傷跡が完全には癒えていないことを示しています。

ご遺族の方々にとって、戦争はまだ終わっていないのかもしれない。遺影などの遺品が後になって発見されたりするなど、人目に晒すことへの葛藤もあったと思います。

一方で、これからは新しい遺品の発見も少なくなり、戦争の記憶も徐々に遠いものになっていくだろうと思います。そのため、現在建設中の新しい戦災資料館では、これらの方々の思いや遺品を確実に展示し、後世に伝えていくことが大切だと思っています。

この 80 年の節目の年に、戦災犠牲者への追悼と平和の尊さを伝え続けることの重要性が改めて示されていると思います。

<記者>

殉難者名簿は、当時の資料が紛失していたりと非常に苦労して作られてきたものだと認識しています。80 年経って 1 人追加されたように、どこまで犠牲者を把握できているのか、まだ全貌が分かっていないのではないかと思います。実際、証言集などを見ると、殉難者名簿に載っていない方のお名前が「亡くなったんじゃないか」と載っていたりするケースもあります。そのため、市としては 1,489 人の方以上に、当時犠牲になられた方がもっといる可能性があるというご認識なのか、少なくとも 1,489 人が亡くなり、これ以上の方が亡くなった可能性があるというご認識なのか、伺いたいと思います。

<市長>

実証的に具体的な数字を示すことは難しいものの、私の印象としては、記録された 1,489 人の犠牲者数以外にも、遥かに多くの方々が空襲で犠牲になっているのではないかと感じています。具体的には、空襲そのものでの直接の死亡だけでなく、けがから 1 週間、1 ヶ月、1 年後に亡くなった方も相当数いたはずです。そういった意味では、この 1,461 人という初期の殉難者数は出発点に過ぎず、順次増加してきたように、これからも増える可能性があります。

また、発見されず名簿に載っていない殉難者の方々も、相当数存在すると考えられます。

つまり、記録された人数以外にも、多くの犠牲者がいたと推察されているということです。

<記者>

先ほど市長から、戦災資料館が建設中とお話がありましたが、この長岡戦災資料館を移転することにした理由や意義があれば教えてください。

<市長>

かねてから様々な観点から申し上げてきましたが、戦後そして長岡空襲 80 年の今日に至るまで、この事実を後世に伝えていくことが非常に困難な状況になってきています。

語り部の高齢化や戦争の歴史の変化などにより、長岡空襲の悲惨な実相を、多くの人々に伝えていくことが難しくなっています。しかし、長岡市は長年にわたり、この記憶を後世に伝えるための取り組みを行ってきました。相当数の遺影の寄附を受けるなど、豊富な資料を収集してきたのがその成果です。一方で、当時のことを知る遺族の高齢化も進み、直接その経験を話す機会が限られてきています。

そのため、長岡市は、この長岡空襲の記憶を 10 年、50 年、100 年にわたり、確実に後世に伝えていくために、新しい戦災資料館を建設しようと考えています。

<記者>

平和を後世に伝えていくという意味ですと、新しい長岡戦災資料館で目玉となる展示

や、PR したい部分、大きく変わる部分がありますでしょうか。

<市長>

現在の戦災資料館は、民間のビルを借りた仮設の施設ですが、ボランティアの皆さんのお力を借りながら、現在の形になっています。新しい戦災資料館では、スペースを広げ、展示の仕方や様々な工夫を凝らしながら整備を進めています。具体的な設計やレイアウトについては、個別の取材などをお願いしたいと思います。節目の時期には、記者会見でも詳しくご説明したいとのことです。基本的な設計は整ってきており、単に拡大するだけでなく、防空壕の再現など、新しい展示手法も取り入れる予定です。

現在の資料館では、一つ一つの展示品に物語があるものの、十分な説明スペースが取れていません。新しい資料館では、展示品にゆとりを持たせ、ビジュアル的な映像なども活用しながら、子どもたちにも分かりやすい展示を目指しています。

<記者>

移転事業に、ふるさとの納税を活用したクラウドファンディングも活用していると思います。集まった資金を移転事業に充てることについての狙いや、どういった思いで取り組まれていますでしょうか。

<市長>

長岡市は新しい戦災資料館の建設にあたり、クラウドファンディングを活用し、多くの方々からご協賛を得ています。この背景には、現在の世界情勢において戦争が絶えず拡大している状況があり、日本が体験した戦争の記憶を大切にし、日本から平和を訴えていくことに、多くの人々が共感しているためと考えられます。つまり、単なる施設の拡充ではなく、現代の平和への願いを反映させた取り組みとして、新しい資料館の建設が進められています。

<記者>

殉難者の認定は、申請があったら全て通るという認識でよろしいでしょうか。

<庶務課長>

殉難者の認定については、まずは申請に基づいて行うことになっています。その上で、戸籍の確認や聞き取り調査など、さまざまな方法で客観的な事実確認を行い、空襲で亡くなったことを確認した上で、その方を殉難者として登録することとしています。

<記者>

今回のケースでは、死亡したという確認はどういう形で取られたのでしょうか。

<戦災資料館長>

今回の件ですが、申請者の方から亡くなられた方の戸籍を拝見したところ、昭和 20 年 8 月 1 日に長岡赤十字病院で死亡したと書かれておりました。申請者の方と亡くなられた方が、本当に直系か、実際に繋がりのある方かを調べるために、申請者の方の戸籍もいただき、亡くなられた方と申請者が「お祖父さんと孫」の関係ということが分かりましたので、認定しました。

<記者>

遺影の数について、新たに 7 人分を追加して、さらに荒海さんという方が殉難者として確認できたとなると、遺影の数は 8 人分増えるということになるのでしょうか。

<庶務課長>

その通りで、年度末の時点で 369 人分だったのが、今年度増え 377 人分になりました。

<記者>

資料の平和祈念式典でお話をされる平沢さんは、初めての支所地域からの空襲体験の講話ということですが、差し支えなければ具体的にどの地域の方なのかお話しできますでしょうか。

<庶務課長>

与板地域の方です。

<記者>

戦後 80 年、語り部の方も高齢化されたり、鬼籍に入られたりする中で、生の語りや生の声を聞く機会が少なくなると思いますが、新たにリニューアルする戦災資料館でも、そういった生の声を聞けるような機会はあるのでしょうか。

<庶務課長>

その部分は今の資料館と変わりなく、日頃ボランティアの方から駐在に入っていて、語り部の方もいらっしゃるので当時のお話を聞いたりすることはできます。

<記者>

そういった方々の声を残していくことは、お考えでしょうか。

<庶務課長>

今までも語り部の声は、証言集や DVD などに残してきているので、引き続き行ってい

きます。

<記者>

遺影の数の確認ですが、去年の 8 月 1 日の時点では 367 人となっていたかと思いますが、昨年度のうちに 2 人増えて、今年度新たに 8 人増えて、今年 377 人になったということでしょうか。

<庶務課長>

はい、その通りです。

<記者>

語り部の方が今高齢化していて、なかなか話せる方も減っている中で、なんとか語り続けていこうと資料館の方でも努力されていると思うのですが、戦災の生の語りを聞いてもらうことの意義というのは、市長にとってはどのように受け止めていらっしゃるのでしょうか。

<市長>

私も、よく語り部の方々のお話を聞く機会があるんですけど、最近も星野栄子さんから、追悼の集いでお話を聞いたんです。その時に、やっぱり実際に体験された方の話はすごく重みがあって、本当の真実が伝わってくるんですよね。その意味は、本当に大きいと思っています。だから、そういう方々の証言を、しっかりと映像に残して、アーカイブとして残していきたいと考えています。確かに、生身の人間は、いつかは誰しも亡くなっていくわけですが、その証言を映像として残しながら、未来の長岡の子どもたちや市民に、ぜひ、接して見ていただきたいと思います。

【 会見項目 3：慰霊と復興、平和への願いを込めて

令和 7 年「長岡まつり」を開催します 】

今年は、長岡空襲から 80 年の節目の年にあたるので、空襲で亡くなられた方々への慰霊、戦災からの復興を成し遂げた先人への感謝、そして未来への発展を願って、まつりを開催します。

各主催団体が、まつり全体をより盛り上げるために、いろいろな工夫をしながら準備を進めています。

具体的には、8 月 1 日の平和祭を 30 分ほど拡大して行い、慰霊や復興の映像の上映、参加者による黙とうなどの新しい企画を行うそうです。また、8 月 2 日の「観光ふれあい広場」では、中越エリアの観光 PR やワークショップ、長岡ゆかりの物産販売などを行い、8 月 3 日の「わんぱくおまつり広場」では、ステージイベントなど、子どもから大人まで楽しめる企画を用意しているそうです。

各団体の皆さまからおいでいただいていますので、一言ずつ事業の PR をしていただきたいと思います。

<長岡商工会議所>

今年は戦後 80 年の節目ということで、その思いを伝える企画を 30 分前倒しして実施します。

具体的な内容としては、まずは長岡青年会議所が 5 年前に作った映像を再編し、3 分にまとめた映像を流すことにしています。長岡空襲の様子から、焼け野原からの復興、そして現在に至るまでの経緯を、コンパクトに見ていただきます。

これによって、なぜ 8 月 1 日に平和祭が開催されるのかを、子どもたちも含めて市民に改めて伝えたいと思っています。その後は、黙とうの後に「見上げてごらん夜の星を」を中澤卓也さんに歌っていただき、開会宣言、バルーンリリース、灯籠行列や子ども神輿などを行います。さらに、例年とは違うプログラムとして、BMX の世界的な兄弟アスリートによるパフォーマンスも予定しています。

<長岡観光コンベンション協会>

8 月 2 日にアオーレアリーナで「観光ふれあい広場」を開催します。市内各地と中越地域の観光 PR のほかに、特産品の販売や、ゆるキャラの大作進、体験ブースも用意しています。

小さいお子様でも楽しめる内容となっていますし、涼み処としての活用もできますので、「にぎわいマルシェ」とあわせて、ぜひ多くの方からご来場いただきたいと思っています。

<大手通商店街振興組合>

8月3日、昼行事の「わんぱくおまつり広場」を担当する大手通商店街です。

毎年、大変な猛暑の影響があるため、ステージ関係はアオーレのアリーナに集中して30分繰り上げて、ステージを盛り上げていきたいと思っています。

会場の方は約30ブースの出店者を抱えています。

毎年楽しみにしている、昼行事の目玉のライブとパレードをしていただくのは、今年は花火を見たいということで、忙しい中来ていただきます、「なかやまきんに君」をお呼びして会場を盛り上げていきたいと思っています。

当然、外のブースもたくさん出店者がいらっしゃいますので、熱中症対策、そして安心安全な運営に努めていきたいと思っています。

<市長>

まず、いよいよ8月2日、3日に大花火大会が開催されます。これは世界に誇る夏の大会イベントで、多くの皆様からご注目をいただいております。

ただし今年は、終戦80年と長岡空襲80年の節目の年でもあります。そのため、花火大会の根源にある「慰霊、復興、平和への祈り」というメッセージを、しっかりと皆さんに伝えていきたいと考えています。

昨年に引き続き週末開催ということで、多くの来場者が見込まれますが、何より安全・安心が最優先です。そのために、関係者の皆さんに協力を呼びかけながら、万全の体制で開催していきたいです。

そして、20周年を迎えるフェニックス花火についても、NPOの皆さんに頑張っていたいただいているとのことで、素晴らしい花火になることを期待しています。

一方で、長生橋のナイアガラ花火は、橋の長寿命化工事のため、残念ながら今年も中止せざるを得ませんが、来年は復活したいと考えています。

<長岡花火財団 理事長>

大花火大会のプログラムについては、昨年と同様、39台の大型花火を打ち上げます。特に20周年を迎えるフェニックス花火は、今年も新しい演出を考えております。

一方で、ナイアガラ花火は、長生橋の補修工事のため、今年も中止せざるを得ませんが、大手大橋でのナイアガラ超大型スターマインは継続して行います。

観覧席の改善点としては、エリア席をブロック指定席化して場所取りを抑える取り組みや、車いす席を新設したことなどです。

安全対策としては、昨年に続きチケット完売となり、約4,500人の警備体制で雑踏事故の防止に努めます。特に、チケットのない方の来場抑制に力を入れており、メディアにも呼びかけにご協力いただいております。

さらに、外国人向けの通訳対応やチケット購入サイトの開設など、インバウンド対策も強化しています。

また、長岡花火オフィシャルパートナー企業による社会貢献事業として、チケットを寄

付していただきました。

以上で今年の長岡まつり大花火大会の説明を終わりますが、先ほども申し上げました、チケットのない方の対応等につきましては、財団の方でも周知に努めますが、ぜひ報道の皆さんからもご協力くださいますよう、重ねてお願いを申し上げます。

<記者>

今年は土日ですし、戦後80年という節目の年でもあり、昨年と比べて人出や雑踏はどのようにご覧になってますか。

<長岡花火財団 理事長>

昨年と同様にチケットは完売しましたが、申込数は昨年を上回っています。

そういう意味では、先ほど申し上げましたように、チケットが外れてしまった人が「でもお休みだから行ってみよう」という方は、どうしても出てくるのかなと懸念していて、それに対する呼びかけを強化しているところであります。

今年は駐車場を予約式にしたり、周辺の不法駐車対策なども進めていますが、とにかく無いのに来てしまう方をいかに止めるかというのが、今年の大きな課題の一つだと考えて、取り組んでいます。

<記者>

先ほどフェニックスについて少し触れられていましたが、戦後80年ということを受けて、花火の構成を工夫したりだとか、披露できることであつたら教えてください。

<長岡花火財団 理事長>

昨年と同じ39台の中で表現していきたいと思います。

<記者>

長生橋のライトアップですが、去年はバリ五輪に合わせて五輪カラーでしたが、今年のライトアップのコンセプトがあれば伺いたいです。

<長岡花火財団 理事長>

ライトアップを実施している団体が企画しているので、本件の詳細については、直接、団体に確認をしていただきたいと思います。

<記者>

今年もチケット完売ということですが、同じ規模であれば34万枚で間違いないですか。

<長岡花火財団 理事長>

17 万枚各日で、34 万席分完売ということになります。

<記者>

今年も何かフリーマーケットなどで転売が相次いでいるという報道もありますが、事実確認としては花火財団ではどれくらい転売を確認されていますか。

<長岡花火財団 理事長>

今回大手のフリマサイトでは、そういった商品が出店された場合、削除するという対応をとっていただきましたので、昨年よりは減っているという実感はありますが、協力いただいてないフリマサイトについては、商品が出ていることを確認しています。

<記者>

数としてはどれくらい把握されていますか。

<長岡花火財団 事務局長>

出品数の総数であります、サイトをご覧くださいとわかりますが、売れると消えるわけですので、私どもが提供した何枚分のチケットが出品されてどれだけ成立したか、実際私どもも把握できておらず、次々に上がってきたものが、本当に売られたかどうかも分からないのが現状です。

<記者>

販売価格はだいたい何倍くらいで売られているかは確認できていますか。

<長岡花火財団 事務局長>

高額を狙っての転売もありますし、残念ながら私どものリセールの方に回さないで、フリーマーケットや転売サイトにお出しになられている方もいらっしゃるので、チケットの額とほぼ同額で出品される良識のある方もいらっしゃれば、10 倍でお出しになる方もいらっしゃいます。

<記者>

最高で 10 倍というのは、確認されているということですね。

<長岡花火財団 事務局長>

今年私が見たのは、48,000 円の席が 20 万円というのがありましたが、率にするとともに倍率が高いものがあります。5,000 円のものが 4 万円、これで 8 倍です。

<記者>

策としては記名式のものを採用されたということですが、当日の確認はどういった形で対策をされるのでしょうか。

<長岡花火財団 事務局長>

可能な限りご本人の確認ができればいいのかもしれませんが、1日あたり17万人のお客様をお招きする状況です。この17万人のお客様お一人お一人の個人確認は、非常に手間と時間がかかります。

雑踏事故に繋がりがねませんので、何かあった場合に本人確認をするのが現実的かと思っています。

<記者>

市長に伺いたいのですが、転売が確認されていることについて、今どのように受け止められていますか。

<市長>

違法な転売については、制度的にできないような仕組みや法整備がされて、実際に防ぐ手段が講じられればいいのですが、現実のところまだそういう状況に至っていないということで、困った事象があり、さまざまなご意見をいただいています。

少なくとも、チケットのほとんどは長岡市民の皆さんから買っていただいていますので、慰霊・復興・平和への祈りの思いで上げる花火なので、長岡市民の皆さんには、転売は絶対にしないように呼びかけていきたいと思います。併せて、公式のリセールを活用していただきたいという周知も徹底していきたいと思います。

<記者>

今回のポスターについて、戦後80年ということで、白菊の構図やキャッチコピー「祈り咲かせて」というところも含めてどんな思いが込められているのか、改めてご紹介いただいてよろしいでしょうか。

<市長>

私も昔、ポスター作りを仕事にしたことがあったのですが、その時はだいたい三尺玉、その後はフェニックスで、そういう意味では豪華な長岡花火というアピールでした。

しかし、長岡花火の本質は慰霊・復興・平和への祈りということを、改めて戦後80年で皆さんに感じていただきたいというメッセージが込められています。

単なる楽しい観光イベントではなく、長岡花火を見ていただくことで人生の中で長く心に残り、元気が出たり、平和への思いを持っていただく長岡大花火大会を多くの皆さんに感じていただきたいと思っています。

このポスターが皆さんにどういうメッセージを出しているか、ぜひ皆さんに感じてみて

ほしいと思います。

<記者>

平和祭について、第 1 部のところで、慰霊・復興を伝える灯籠行列と子ども神輿と書かれていますが、これは初めての取り組みになるのかもしれませんが、灯籠行列がどういったもので、子ども神輿とどのようにコラボレーションするのか、ぜひ PR していただければと思います。

<長岡商工会議所>

子ども神輿は 2 年前にもやっていて、灯籠流しは別会場でほぼ同じ時間にやっているの、今回は戦後 80 年ということもあり、ぜひ繋げたいということで、灯籠行列を加えたのは新しい取り組みになります。

どんな演出かについては、鋭意演出を考えているところですので、当日お楽しみいただければと思います。

<長岡花火財団 理事長>

東京海上日動火災保険株式会と財団で相談して、新たな保険を作って適用しているところです。

従来イベント保険は、イベント当日に事故があった場合などに保証される商品是一般적입니다。ありますが、長岡花火のように準備期間が長いイベントにつきましては、その最中に、例えば洪水時期に水が上がったり、準備の大半が流れてしまうというようなリスクを負っているイベントです。

そういったものについて、準備期間中も含めた保険というのがあり得ないだろうかと保険会社と財団で協議をして、そういった形での保険は、我が国では初めてではないかと思いますが、商品を増成していただいて、加入したということです。

大きなイベントですので、準備期間からの保険に入ること、私どもも安心して準備を進められる対応をとりましたので、リリースに付けさせていただきました。

<記者>

長岡花火は本来慰霊の花火ですが、近年ですとオーバーツーリズムなどの問題も指摘されています。そういった中で改めて、チケットに関連して、今後來場を考えている人に何か呼びかけなどありましたらお願いします。

<市長>

長岡花火は日本一の花火、世界一の花火ということで、ご来場くださる方には非常に大きな期待を持ってご来場いただけたと思います。感謝申し上げたいと思います。

長岡まつり大花火大会が全体がそういう趣旨なのですが、慰霊と復興と平和への祈りと

いう長岡ならではのルーツと、思いを込めた花火であるということを、ぜひ実感していただき、明日への元気を皆さんから持って帰っていただきたいと思います。

<記者>

関連してチケットの転売や、先ほど財団からは「チケットのない人は来場を控えて欲しい」と呼びかけがありましたが、その点に関して市長としていかがですか。

<市長>

一地方の花火大会ではなくて、国家的なイベントというのは少し大袈裟ですが、日本を代表する夏のイベントになった長岡大花火大会が本当に安全で、開催に支障が出るようなことのないように、チケットの転売を止めてもらいたいし、違法駐車やさまざまな迷惑行為もせずに、大いに楽しんでいただきたいと思います。

【 記者会見同時報道リリース 】

<市長>

1 つは渇水対策で、今干ばつがずっと続いていて、先日雨が降りましたが、十分な雨が降っているわけではない中で、特に中山間地の天水田、養鯉池の水不足が懸念され始めました。関係者が心配していますので、その対策を既決の予算の中で、きちんと打っていきたいということで、リリース資料にある通りです。

2 点目は、西部丘陵東地区進出協定締結式についてです。

これまでに 5 社が進出を決定し、2 社が操業を開始している地域ですが、この度、岩塚製菓株式会社が進出を決定し、7 月 28 日 10 時 30 分から協定の締結式を行います。岩塚製菓の新たな工場の進出で、西部丘陵東地区の産業ゾーンは完売になりました。

7 月末に暫定オープンする「お米となかよしパーク」についても、締結式の時に発表する予定となっています。

<記者>

原発の関係でお伺いしたいのですが、今月初めに市長も出席されたブロック別懇談会がありましたし、27 日には長岡会場で公聴会も予定されています。

知事が県民の意識を見極めるためにこれらのことをされていると思いますが、市長としては、この進め方について現時点でどう評価しているかお聞きできますでしょうか。

<市長>

最終的に、県民の意識をどのように確認するのかというプロセスについては、新潟県が

完全に公表しているわけではありません。公聴会や県民意識調査の話は出ているものの、それで本当に十分なのかどうかは、結果を見ないとわからないですね。

この意識調査の中身、つまり調査内容や質問項目、サンプル数などがどのように決まっていくなのか、私としてはとても関心があります。

ただ、県民調査が行われて、本当に県民の意識が十分に確認できたかどうかは、やはり結果を見てみないとわからないと思います。

大事なものは、県民の皆さんがどう考えているだけではなく、今の問題点や課題、UPZ の住民が何を心配しているのか、何をすべきだと考えているのかも、しっかりと整理して出していないといけない状況だと考えています。

<記者>

渇水対策について伺います。

梅雨時期の小雨により、県内さまざまな地域で水不足が心配されている中で、中山間地域の一部で実際に水不足が発生しているとのことですが、長岡のどこ地域でどのようなことが発生しているのか認識されていますか。

<農水産政策課長>

確認できる場所は山古志、栃尾、小国などのいわゆる天水田で、水利を雨水に頼っている地域で、沢の水が細くなっていたり、溜池の水が少なくなっているため、水不足が懸念されている状況です。

<記者>

実際に田んぼのひび割れなどは確認されてない状況でしょうか。

<農水産政策課長>

今はちょうど中干しという水を落としている期間なので、自然にひび割れが当然のように毎年出ているところはあります。

私が見た現場状況ですと、そのひび割れに手のひらが入ってしまうような、大きなひび割れが出ている状況もいくつか確認されています。

それによって稲が枯れるなどは、まだ確認できていません。

<記者>

渇水対策についてですが、予算の規模はどのぐらいを予定しているのでしょうか。

昨年何か渇水対策をされていたと思うのですが、いつ以来このような対策をされるのでしょうか。

<農水産政策課長>

予算の規模は既決予算の中ですが、養鯉池と農地を合わせて 400 万円を今のところ想定しています。

渇水対策については令和 5 年度から始めて、昨年度も行いました。その時の実績が大体 200 万円くらいの補助金額でしたので、今回はその 2 倍程度の予算を予定しています。

<記者>

隣の小千谷市の件で恐縮ですが、小千谷市に工場を持つ、パワー半導体製造メーカーの JS ファンドリが、先日破産申請をしました。

長岡市にとっても影響が少なからずあると思いますが、市長の率直な受け止め、認識をお願いします。

<市長>

JS ファンドリの破産については、現時点では、連鎖倒産やサプライチェーンの地元企業への大きな影響はないと認識しています。ただ、今後の負債処理などの状況については、しっかりと確認していく必要があると思っています。

影響を受けている企業に対しては、運転資金の融資制度や、その融資に伴う保証料を 100%補助するといった支援策を使いながら、対応していきたいと考えています。

あと、解雇された従業員のうち、長岡在住者が 239 人いたそうです。ここについては、長岡のハローワークを中心に、小千谷市や長岡市の雇用対策協議会と一緒に動いていて、就職面接会を開くなど、この 239 人の方々の再就職支援に早急に取り組んでいるところです。

<記者>

例えば市として相談窓口を開設するなどの考えはありますか。

<市長>

企業の皆さんについては、会議所に窓口がありますし、市としても受けていきます。解雇された方々については、ハローワークからの動きに沿いながら行いますので、長岡市が直接解雇された方の相談を受ける窓口は設けませんが、相談があればきちんと受けていきたいと考えています